

⑤実用新案公報(Y2)

昭54-23483

⑥Int. Cl.^a

A 45 D 40 / 26
A 45 D 33 / 00
A 45 D 34 / 04

識別記号

⑦日本分類

125 C 13
125 C 12

⑧庁内整理番号

7001-3B
7001-3B
7001-3B

⑨公告

昭和54年(1979)8月11日

(全3頁)

1

⑩化粧料容器

⑪実 願 昭51-141941

⑫出 願 昭51(1976)10月21日

公 開 昭53-61276

⑬昭53(1978)5月24日

⑭考 案 者 岡村芳和

東京都板橋区新河岸2の7の11
藤工業株式会社

⑮出 願 人 藤工業株式会社

東京都板橋区新河岸2の7の11

⑯代 理 人 弁理士 谷山守

⑰実用新案登録請求の範囲

1. 有底筒状容器口部に螺合するキャップと、該キャップと一体に成り、上記口部に内挿嵌合したシゴキ部材を貫挿して容器内に挿入される塗布棒と、該塗布棒端部に螺設したネジに螺着する補助部材の舌状部に接着して成る塗布部材から成る化粧料容器。

2. キャップ螺合部と塗布棒に螺設するネジを同ピッチ、同方向とし、キャップ部材が一体同時成型出来る様に構成したことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の化粧料容器。

3. 塗布棒端部に螺合して成る塗布部材を接着した補助部材を、該螺合部に於いてカシメ加工又は溶着加工に依るネジ戻り防止加工を施工して成ることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の化粧料容器。

考案の詳細な説明

本考案は、液状、ペースト状又は粉状のアイシヤドウ等の化粧料を収納する容器に関する。

従来、化粧料を収納するための容器は多数考案されているが、特に化粧料内にキャップと一体化して成る塗布部材を浸漬し、該塗布部材に付着した化粧料を顔面等に直接して使用する塗布型の化粧品容器は、塗布部材に付着した過剰化粧料を容

2

器内に戻すための、シゴキ部材が容器口部に設けられているが、該シゴキ部材と塗布部材の摩擦に依り、塗布部材が塗布棒端部から抜け落ちてしまう事故が多発し、実用上の欠点を有するものであつた。

本考案は上記欠点に鑑み、塗布部材が塗布棒から抜け落ちない為の化粧料容器の改良を目的とするもので、キャップ部と一体に成る塗布棒先端にキャップに螺設した螺合ネジと同ピッチ、同方向のネジを螺設、同時成型して、該ネジに塗布部材を接着又は溶着して成る補助部材を螺合一体化し容易に塗布部材が抜け落ちることのない化粧料容器を提唱することを目的とするものである。

今、本考案化粧料容器の実施例を図面について詳しく説明するに、第1図は化粧料容器の縦断面図である。

有底筒状の容器本体1は合成樹脂、ガラス、磁器、又は金属等に依つて構成され、該本体1の口部1a外周には螺合用雄ネジ2が螺設され、口部1a内にはゴム、合成ゴム等から成るシゴキ部材3がその嵌挿部3aを密接して内挿し、外端3bを容器本体口部1aに係止して成る。

4は上記本体口部1aに係合するキャップであり、該キャップ4は上記シゴキ部材3の挿入孔5に密接して挿入される塗布棒6とキャップ嵌合部7が合成樹脂にて一体に成型されるもので、キャップ嵌合部7には金属又は合成樹脂から成る裝飾キャップ8が外挿押入されると共に、下端部内周には上記雄ネジ2に係合する雌ネジ9を螺設して成る。

上記塗布棒6の先端部6aの内端には前記雌ネジ9と同ピッチ、同方向の雄ネジ10を螺設すると共に、該雌ネジ10に係合する雄ネジ11を設けた補助部材12の舌状部12aに発泡ウレタン樹脂等の塗布部材13を外挿接着し、該塗布部材13の上端部13aを塗布棒6の先端部6aに押し込みながら補助部材12の雄ネジ11を螺

ネジ 10 に螺合固着して成る。然る後、その螺合部をカシメ加工若しくは接着、或は超音波ウエルダー等により、溶融接着して一体化して成る。尚、図中 12 b は補助部材舌状部 12 b 表面に一体成型した凸状であり、又 a は化粧料である。

上記構成に成る化粧料容器は、化粧品 a を本体 1 内に充填後、キャップ 4 と一体に成る帆布棒 6 をシゴキ部材 3 の挿入孔 5 より容器内に挿入し帆布棒 6 の先端に固着した帆布部材 13 に化粧料 a を浸漬又は付着せしめると共にキャップ 4 を引き帆布棒 6 を引き抜く途中に於いてシゴキ部材 3 の挿入孔 5 に依り帆布部材 13 に付着した加割化粧料 a を容器本体 1 内にシゴキ落す様に成るものである。

然して、上記帆布棒 6 に設けた帆布部材 13 は補助部材 12 の舌状部 12 a に接着されると共に、該補助部材 12 が帆布棒 6 と螺合して成る為、引張力に対して帆布部材 13 が抜け落ちることがなく、更に螺合部を接着してネジ戻りが無い様構成されている為容易に補助部材 12 が帆布棒 6 端部から外れる事はない。

又、上記構成の帆布棒 6 及びキャップ嵌合部 7 は同時成型されるものであるが、キャップ嵌合部 7 に螺設する雄ネジ 9 と帆布棒 6 に螺設する雄ネジ 10 を同ピッチ、同方向にすることに依つて成形型を増設することなく一体化成型出来るもので

ある。

以上説明した様に本考案、化粧料容器は容器本体内に該口部に設けたシゴキ部材を介して挿入する帆布棒を、キャップ嵌合部を一体的に成型すると共に、該帆布棒端部に帆布部材を補助部材を介して螺合した後、カシメ加工、接着加工等を実施してネジ戻りを防止した為、キャップの引き抜き動作に対して帆布部材が簡単に帆布棒から抜け落ちない様に成り、又、該帆布部材が舌状部を有する補助部材を介して帆布棒に固着される為、帆布に際して舌状部が適当に屈曲し、化粧料が流り易い特徴を有する。

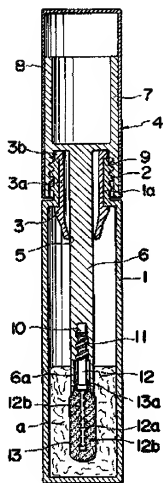
加えて、キャップの螺合ネジと帆布棒の螺合ネジを同ピッチ同方向に構成した為、帆布棒とキャップ嵌合部を一体的に且つ同時成型出来る様に成る等本考案、化粧料容器の実用的効果は極めて大きい。

図面の簡単な説明

図面は本考案、化粧料容器の一実施例を示すもので、第 1 図は化粧料容器の縦断面図、第 2 図は同要部分解斜視図である。

1 ～ 容器本体、2、11 ～ 雄ネジ、3 ～ シゴキ部材、4 ～ キャップ、5 ～ 挿入孔、6 ～ 帆布棒、7 ～ キャップ嵌合部、8 ～ 裝飾キャップ、9、10 ～ 雌ネジ、12 ～ 補助部材、12 a ～ 舌状部、13 ～ 帆布部材、a ～ 化粧料。

第1図



第2図

